

氏名 北 田 信 吾

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 4 7 7 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和46年 9 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 肝胆道疾患におけるグルタミン酸脱水素酵素に関する研究

論 文 審 査 委 員 教授 大 藤 真 教授 水 原 舜 爾 教授 平 木 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

健常者および肝胆道疾患々者の血清グルタミン酸脱水素酵素 (GLD) 活性を測定し、肝組織や黄疸などとの関連を検討した。血清 GLD は急性肝炎黄疸期、肝内性胆汁うっ滞、肝癌、閉塞性黄疸で高値を示した。組織との関係では急性肝炎、肝硬変での血清 GLD 上昇は細胞壊死と密接な関係があり、肝硬変では小葉改築との間にもある程度の相関をみた。さらに肝癌を除く血清ビリルビン値 2.0 mg/dl 以上の閉塞性肝胆道疾患では、 $\text{GLD/GPT} > 1.5$ (但し ZnTT 正常) は新しい黄疸の診断基準として有用である。

ラット肝浮遊細胞解置実験および肝動脈結紮実験では、GLD の遊出は肝細胞内における局在性の問題とともに、肝細胞に対する低酸素状態が関与していることが推定された。またラット硬変肝を用いた実験では、GLD 活性は肝内で著明に減少し、逆に血清中では有意の増加を示した。

(岡山医学会雑誌 第83巻, 5, 6 号に掲載 昭和46年 6 月30日発行)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、肝胆道疾患におけるグルタミン酸脱水素酵素の動きならびにその機転について、臨床的ならびに実験的に研究したもので、従来明らかでなかったこの方面の知見を確立したものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。